

2020年度（第11期）事業報告

自 2020（令和2）年4月1日
至 2021（令和3）年3月31日

目次

1. 株式会社の現況に関する事項	
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 取り組んだ主な事業	1
(3) 対処すべき課題と今後の方向性	5
(4) 資金調達等の状況	5
(5) 設備投資の状況	5
(6) 主要な事業内容	5
(7) 主要な営業所	5
(8) 使用人の状況	6
2. 株式に関する事項	6
3. 役員に関する事項	6

札幌駅前通まちづくり株式会社

1 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度における経営環境は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により依然として厳しい状況にあり、政府による緊急事態宣言の発出や自治体からの外出・イベント開催の自粛要請などで経済活動が低迷し、先行きも依然として不透明な状況にあります。

このような中、当社は札幌駅前通地下広場(チ・カ・ホ)や札幌市北3条広場(アカプラ)の指定管理業務、チ・カ・ホの壁面を活用した広告事業、地域コミュニティづくりなどの事業を進めてまいりましたが、感染の拡大はエリアマネジメント活動にも様々な影響を及ぼしました。

チ・カ・ホについては、感染拡大防止のため、4月から5月にかけて札幌市からの指示で休館し(広場利用の中止)、利用再開後も広場利用を手控える動きが続きました。さらに、2020年夏に予定されていた東京オリンピック・パラリンピックの開催が延期され、チ・カ・ホで予定されていた関連イベントが中止になったことなどから、年間の稼働率は約67%にとどまりました。

例年であれば北海道の食や観光をPRするイベントや企業のセールスプロモーションなどで賑わうアカプラについても、イベントの開催自粛に伴い、ほぼ全ての利用がキャンセルになるなど大きな影響を受けました。

また、壁面広告事業については、1週間単位で出稿できる短期広告は、イベント告知や観光業を中心に掲載を見合わせたことなどの影響により、年間稼働率が約72%と前期を下回りましたが、3か月単位の長期広告については、前期に引き続き100%の稼働となりました。

その結果、今期の事業収益は、売上高が208,892千円と前期を大きく下回りましたが、主催イベントの中止に伴う事業費の縮小や販売費及び一般管理費の削減などを進めた結果、当期純利益は7,063千円となり、黒字を確保いたしました。

(2) 取り組んだ主な事業

① 関係各所との連携による「まちづくり」の取組

a. 賑わいの創出

地域の賑わい創出や活性化等を目的に、企業や町内会、行政等から構成されるまちづくり実行組織の「札幌駅前通地区活性化委員会」と連携してイベントを実施し、地域のブランド力アップに努めました。

(札幌駅南口駅前広場エキヒロ Cafe、アカプライルミネーション 2020-2021、エキヒロイルミネーション 2020-2021 など)

また、地域のコミュニティ組織として活動している「札幌駅前通振興会」と協働で、「冬のまち歩きを楽しく」をコンセプトに、装飾したツリーを札幌駅前通

沿道のビルや店舗の軒先などに飾り、クリスマスや季節の雰囲気を広げておもてなしをする「Happy Tree Street 2020」を展開しました。

さらに、外出自粛や営業時間の短縮要請により厳しさを増している飲食店等を支援するため、駅前通十街区及び周辺の店舗でテイクアウトを行っている店舗をまとめた MAP を作成し、主に当地区のビジネスパーソンに向けて発信しました。

b. 環境美化

札幌駅前通振興会や町内会・近隣企業等と連携し、札幌駅前通の清掃活動（ツキイチ・クリーン）を行いました。

c. 安心安全なまちづくり

地下歩行空間に接続するビルや行政などで構成される札幌駅前通地区防災協議会の事務局として、2019 年度に策定した「札幌駅前通地区帰宅困難者対策の手引き（暫定版）」に、今般の新型コロナウイルスを含む感染症への対策を盛り込んで改訂したほか、現在の状況下における防災への取組に関するオンライン研修等を行いました。

また、札幌中心部の公的な施設におけるいわゆる「ホームレス」の方々の滞在状況等について、施設管理者及び支援団体間で情報共有を行い、その後の支援につなげるため設立した「札幌中心部ホームレス対策施設連絡会」の事務局として、チ・カ・ホを含む各施設と支援団体との連絡・調整業務を行いました。

② 指定管理業務（「チ・カ・ホ」、「アカプラ」）を中心とする取組

札幌市及び関係機関と広場の運営・管理についての協議を行いながら、以下の事業を行い、都心の賑わいの創出等に努めました。

●札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」

○活用内容

- ・「都心の回遊性、活性化」の促進

チカチカ☆パフォーマンススポット、kurache（クラシェ）、チ・カ・ホ LIVE（クラシック・ジャズ）の開催、チ・カ・ホ MAP の発行など

- ・「都心ビジネスパーソンへの快適な日常」の提供

接続空間を活用した休憩スペースの充実化、「Sapporo City Wi-Fi」の運用

- ・「さっぽろ・北海道の魅力発信」の推進

道内観光・魅力発信 PR 展の実施（各振興局・観光協会などのサポート）、北海道イベントインフォメーションボードの設置・運用

- ・「季節等のイベント」の実施・協力
さっぽろ菊まつり、さっぽろアートステージなど

○広場の貸出業務

交差点広場や憩いの空間の貸出促進及び活用支援、情報提供機能の充実（ホームページでのイベント情報の掲出）、オンライン利用説明会の開催

○環境等の配慮

案内所の設置（ビッグイシューさっぽろとの連携）、周囲のデザインと調和した“デザインテーブル”（販売什器）の制作・貸出

○運営・管理について

「チ・カ・ホ」に適した展示・出店デザインやルール等の検討・実施、新型コロナウイルス感染防止対策の指導、札幌駅前通地下広場運営協議会の開催

●札幌市北3条広場「アカブラ」

「道庁赤れんが庁舎」や「イチョウ並木」の景観に配慮し、地域資源を活用した文化の発信など、地上の賑わいの拠点としての活用を図りました。

- ・アカブラテイクアウト ～みんなのテラス席プロジェクト～（キッチンカー展開）
- ・アカブライルミネーション 2020-2021（主催事務局）
- ・札幌市北3条広場運営協議会の開催

③ エリアマネジメントの基盤を固める取組

・エリアマネジメント広告

チ・カ・ホの壁面を活用して企業等の広告を掲出し、賑わいの創出に努めるとともに、エリアマネジメント活動の貴重な財源として活用を図りました。

広告稼働率：短期枠（1週間単位）… 実績 72%（目標 65%）

長期枠（3か月単位）… 実績 100%（目標 100%）

・札幌駅前通協議会

当社が事務局を担い、札幌駅前通沿道の地権者が中心となって当地区のまちづくりの促進のための課題事項の解消や事業の実施等について検討・協議することを目的に2005年10月設立された「札幌駅前通協議会」では、これまで、札幌駅前通沿道の街並みのあり方について検討が進められ、「札幌駅前通北街区地区計画」の提案や「札幌駅前通地区まちづくりビジョン」を策定してまいりました。その中で、札幌駅前通地区の目指すべき将来像を「国内外からの多様な人々の集積と交流により様々な活動・ビジネスが創出されるまち～イノベーションエリア～」と定め、これらを実現するため、地区計画の見直しや「都心における

開発誘導方針」で定められた容積率緩和の評価項目を地区の開発に取り入れるとともに、地区計画に定めたルールを補完するものとして、「まちづくりガイドライン」及び「景観まちづくり指針」を策定し、関係者の協議によりこれらに準拠した開発を推進する体制づくりを進めました。

・エリアマネジメントのあり方や広場の活用についての他都市との交流・研究

全国各地でエリアマネジメント活動を実践している団体が連携してその取組を推進するために共同で設立した「全国エリアマネジメントネットワーク」の幹事社として、コロナ禍によって顕在化した課題の解決方法の検討や、エリアの価値を高める現在の取組について他都市と緊密に情報交換するなど、当地区の地域価値向上のための諸活動を推進しました。

・将来を見据えた指定管理以外の事業の検討

都心部に多様な人材や情報、資金を惹きつけ、エリアの空間や機能、活動が新規創業や既存ビジネスの活性化を支えるためには、「エリアの価値」を高めていく戦略的な取組が必要とされます。

そのために当社は「世話役・つなぎ役」としての役割を担い、これまでの公共空間の管理に加え、民間と公共をつなぐ領域づくりのために、コーディネート業務を行い、戦略的なエリアマネジメントを実践していくための仕組みづくりを引き続き検討しました。

④ 地域資源を活用した文化の発信等の取組

・「全市的な季節のイベント」等の実施・協力

さっぽろ菊まつり、さっぽろアートステージ、さっぽろホワイトイルミネーションなどへの協力・支援を行いました。

・「テラス計画」の活用促進

札幌三井 JP ビルディング内にある眺望ギャラリー「テラス計画」においてアート作品の展示のほかにも様々なワークショップなどを開催し、多くのアーティスト、デザイナー、学生、ビジネスパーソンの参画により、眺望のみならず、人々が自由に交流し、札幌らしい生活・芸術文化の計画、提案が行われる『創造の場』として活用しました。

⑤ 人材育成事業

近年、アートを用いたまちづくりや地域振興が活発化している中、その担い手不足が指摘されており、当社の主催事業として「アートマネジメント／まちづくり」をゼロから学べる入門講座「Think School（シンクスクール）」を昨年度に引き続

き開校し、「企画コース」「制作コース」合わせて16名が受講しました。

(3) 対処すべき課題と今後の方向性

新型コロナウイルスの終息が見通せない中、経済活動の低迷は避けられない状況となっており、道内経済においても企業業績への影響が懸念されるなど、先行きの不透明な状況が続くものと見込まれます。指定管理施設の活用を図りつつ、エリアマネジメント広告事業の収益等をまちづくりに還元する当社の事業についても、大変厳しい経営環境が続くことが予想されます。しかしながら、コロナ禍におけるエリアマネジメント活動が地域の事業者の皆様の方力になれた事例も数多くあったことから、このような状況の中でも取組を停滞させないことが重要となります。

今後もお客様に安心して広場をご利用いただけるよう、また、壁面広告への出稿を数多くいただけるよう様々な施策や情報発信を継続して行い、感染終息後の収益確保に努めます。また、賑わいの創出をはじめとする各種事業の実施については、安全が確保された段階で、収益の状況にあわせた事業規模で行うことといたします。

コミュニティ活動についても、当面の間は「集う」活動の実施は困難であることから、オンライン等の活用を図りながら、終息後の活動に繋がるよう「いまできること」に地道に取り組んでまいります。

このような未曾有の事態や予期せぬ災害が発生した場合でも会社が維持存続できるよう、安定した財務基盤を築いていくことはもちろんのこと、従業員の安全を確保しながら業務を継続できるようテレワーク等を積極的に活用し、緊急時でもエリアマネジメント活動が停滞しないよう努めてまいりたいと考えています。

(4) 資金調達等の状況

該当事項はありません。

(5) 設備投資の状況

当期は、地下広場の大型映像装置（デジタルサイネージシステム）の老朽化に伴うサーバー機器等の更新に7,970千円の設備投資を行いました。

(6) 主要な事業内容

- ・札幌駅前通地区でのまちづくり活動及び札幌都心部他地区におけるまちづくり活動との連携調整に関する業務
- ・札幌駅前通地下歩行空間（地下広場）及び札幌市北3条広場の管理運営の受託に関する業務
- ・地域の活性化を図るための事業企画、立案、コンサルティング及びその受託に関する業務

(7) 主要な営業所

本社 札幌市中央区北3条西3丁目1番地 札幌駅前藤井ビル8F

(8) 使用人の状況

2021年3月31日 現在

使用人	平均年齢	平均勤続年数
12人	40.9歳	8年3か月

※上記は正社員のみ

2 株式に関する事項

- (1) 発行可能株式数 1,000株
- (2) 発行済株式の総数 198株
- (3) 当事業年度末の株主数 17名

3. 役員に関する事項

2021年3月31日 現在

役職名	氏名	他の法人等の代表状況
代表取締役社長	芳村 直孝	(常勤)
代表取締役副社長	越山 克志	株式会社越山ビルディングズ 代表取締役社長
取締役	柴田 隆行	株式会社伊藤組 代表取締役副社長
取締役	石塚 雅明	株式会社石塚計画デザイン事務所 顧問
取締役	石水 創	石屋製菓株式会社 代表取締役社長
監査役	石田 裕一	株式会社北洋銀行 執行役員公務金融部長
監査役	沼田 和之	株式会社北海道銀行 小樽支店長

注) 1 (代表取締役副社長) 越山克志氏、(取締役) 柴田隆行氏、石塚雅明氏、石水 創氏、は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2 (監査役) 石田裕一氏、沼田和之氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。